

<<百首经典和歌赏析>>

图书基本信息

书名：<<百首经典和歌赏析>>

13位ISBN编号：9787562927754

10位ISBN编号：7562927758

出版时间：2008-8

出版时间：武汉理工大学出版社

作者：武德庆

版权说明：本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问：<http://www.tushu007.com>

<<百首经典和歌赏析>>

内容概要

《百首经典和歌赏析：新解》是在《和歌小仓百人一首讲义》的基础上重编而成的。该书除在“赏析”部分里注入新的内容和观点外，最大的改变是在求实的基础上，将古典和歌化难为易，力求通俗有趣，以适应更多的读者。

<<百首经典和歌赏析>>

作者简介

武德庆，1952年生。
1978年毕业于上海外国语大学日语专业。
长期从事日本文学、文化教学与研究。
现任武汉理工大学日语系副教授，湖北省政府发展研究中心特邀研究员。
在武汉大学出版社出版《日本文学教程（日文版）》（参编）、《日本古典文学作品选读（日文版）》（主编）、《日本国情概观（日文版）》（主编）等教材，并发表相关学术论文多篇。

<<百首经典和歌赏析>>

书籍目录

赏析部分1秋の田のかりほの庵の苫をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ2春すぎて 夏来にけらし 白妙の衣ほすてふ 天の香具山)3あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜を ひとりかも寝む4田子の浦に うちいでて見れば 白妙の 富士の高嶺に 雪はふりつつ5奥山に もみぢふみわけ なく鹿の 声聞くとときぞ 秋はかなしき6かささぎの 渡せる橋に おく霜の 白きを見れば 夜ぞふけにける7天の原 ぶりさけ見れば 春日なる 三笠の山に いでし月かも8わが庵は 都のたつみ しかぞすむ 世をうち山と 人はいふなり9花の色は うつりにけりな いたづらにわが身よにふる ながめせしまに10これやこの 行くも帰るも わかれては 知るも知らぬも あふ坂の関11わたの原 八十島かけて こぎいでぬと 人には告げよ あまのつり舟12天つ風 雲のかよひ路 吹きとちよ をとめの姿 しばしとどめむ13つくばねの 峰よりおつる みな の川 こひぞつもりて 淵となりぬる14みちのくの しのぶもぢずり 誰ゆゑに 乱れそめにし われならなくに15君がため 春の野にいでて 若菜つむ わが衣手に 雪はふりつつ16立ちわかれ いなばの山の 峰に生ふる まつとし聞かば いま帰り来む17ちはやぶる 神代もきかず 竜田川 からくれなゐに 水くくるとは18すみの江の 岸による波 よるさへや 夢のかよひ路 人めよくらむ19難波潟 みじかき芦の ふしのまも あはでこの世を すぐしてよとや20わびぬれば いまはたおなじ 難波なる みをつくしても あはむとぞ思ふ21いまこむと いひしばかりに 長月の ありあけの月を 待ちいでつるかな22吹くからに 秋の草木の しをるれば むべ山風を 嵐といふらむ23月みれば ちぢに物こそ かなしけれ わが身ひとつの 秋にはあらねど24このたびは ぬさもとりあへず 手向山 もみぢのにしき 神のまにまに25名にしおはば 逢坂山の さねかづら 人にしられで 来るよしもがな26小倉山 峰のもみぢば 心あらば いまひとたびの みゆき待たなむ27みかの原 わきて流るる いづみ川 いつみきとてか 恋しかるらむ28山里は 冬ぞさびしさ まさりける 人めも草も かれぬと思へば29心あてに 折らばや折らむ 初霜のおきまどはせる 白菊の花30ありあけの つれなく見えし 別れより あかつきばかり うきものはなし31朝ぼらけ ありあけの月と 見るまでに 吉野の里に ふれる白雪32山川に 風のかけたる しがらみは ながれもあへぬ もみぢなりけり33ひさかたの 光のどけき 春の日に しづ心なく 花のちるらむ34誰をかも する人にせむ 高砂の 松も昔の 友ならなくに35人はいさ 心もしらず ふるさとは 花ぞ昔の 香にほひける36夏の夜は まだ宵ながら あけぬるを 雲のいづこに 月やどるらむ37白露に 風の吹きしく 秋の野は つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける38忘らるる 身をば思はず ちかひてし 人のいのちの 惜しくもあるかな39浅茅生の 小野の篠原 しのぶれど あまりてなどか 人の恋しき40しのぶれど 色にいでにけり わが恋は 物や思ふと 人のとふまで41恋すてふ わが名はまだき 立ちにけり 人しれずこそ 思ひそめしか42ちぎりきな かつみに袖を しばりつつ 末の松山 波こそさじとは43あひみての のちの心に くらぶれば 昔は物を 思はざりけり44あふことの たえてしなくは なかなか 人をも身をも 恨みざらまし45あはれとも いふべき人は 思ほえて 身のいたづらに なりぬべきかな46由良のとを わたる舟人 かぢをたえ ゆくへも知らぬ 恋の道かな47八重むぐら しげれる宿の さびしきに 人こそ見えね 秋は来にけり48風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ くだけて物を 思ふころかな49みかきもり 衛士のたく火の 夜はもえ 昼は消えつつ 物をこそ思へ50君がため 惜しからざりし いのちさへ 長くもがなと 思ひけるかな51かくとだに えやはいぶきの さしも草 さしもしらじな もゆる思ひを (97) 52あけぬれば 暮るるものとは しりながら なほうらめしき 朝ぼらけかな53なげきつつ ひとりぬる夜の あくるまは いかにかしき ものとかはしる54忘れじの ゆくすゑまでは かつければ 今日をかぎりの いのちともがな55滝の音は たえて久しく なりぬれど 名こそ流れて なほ聞こえけれ (105) 56あらざらむ この世のほかの 思ひ出に いまひとたびの あふこともがな57めぐりあひて 見しやそれとも わかぬ間に 雲がくれにし 夜半の月かな58有馬山 猪名の笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはする59やすらはで 寝なましものを さ夜ふけて かつぶくまでの 月をみしかな60大江山 いく野の道の 遠ければ まだふみも見ず 天の橋立61いにしへの 奈良の都の 八重桜 けふ九重に にほひぬるかな62

<<百首经典和歌赏析>>

夜をこめて 鳥のそらねは はかるとも よに逢坂の 関はゆるさじ63いまはただ 思ひ絶えなむ
 とばかりを 人づてならで 言ふよしもがな64朝ぼらけ 宇治の川霧 たえだえに あらはれわ
 たる 瀬ぜの網代木65うらみわび ほさぬ袖だに あるものを 恋にくちなむ 名こそをしけれ66
 もるともに あはれと思へ 山桜 花よりほかに する人もなし67春の夜の ゆめばかりなる 手
 枕に かひなくたたむ 名こそをしけれ68心にも あらでうき世に ながらへば 恋しかるべき
 夜半の月かな69あらしふく み室の山の もみじばは 竜田の川の 錦なりけり70さびしさに 宿
 をたちいでて ながむれば いづこもおなじ 秋の夕ぐれ71夕されば 門田の稲葉 おとづれて
 芦のまるやに 秋風ぞ吹く72音にきく たかしの浜の あだ波は かけじや袖の ぬれもこそす
 れ73高砂の をのへの桜 咲きにけり 外山のかすみ たたずもあらなむ74憂かりける 人を初瀬
 の 山おろしよ はげしかれとは 祈らぬものを75ちぎりおきし させもが露を いのちにて あ
 はれ今年の 秋もいぬめり76わたの原 こぎいでてみれば 久方の 雲ゐにまがふ 沖つ白波77瀬
 をはやみ 岩にせかるる 滝川の われても末に あはむとぞ思ふ78淡路島 かよふ千鳥の なく
 声に 幾夜ねざめぬ 須磨の関守79秋風に たなびく雲の たえ間より もれいづる月の かげの
 さやけさ80長からむ 心もしらず 黒髪のみだれてけさは 物をこそ思へ81ほととぎす 鳴きつ
 るかたを ながむれば ただありあけの 月ぞ残れる82思ひわび さてもいのちは あるものを
 憂きにたへぬは 涙なりけり83世の中よ 道こそなけれ 思ひ入る 山の奥にも 鹿ぞ鳴くなる84
 ながらへば またこのごろや しのばれむ 憂しと見し世ぞ 今は恋しき85夜もすगर 物思ふこ
 ろは 明けやらで 閨のひまさへ つれなかりけり86なげけとて 月やは物を 思はする かこち
 顔なる わが涙かな87村雨の 露もまだひぬ まきの葉に 霧たちのぼる 秋の夕ぐれ88難波江の
 芦のかりねの ひとよゆゑ みをつくしてや 恋ひわたるべき89玉の緒よ たえなばたえね な
 がらへば 忍ぶることの 弱りもぞする90見せばやな 雄島のあまの 袖だにも ぬれにぞぬれし
 色はかはらず91きりぎりす 鳴くや霜夜の さむしるに 衣かたしき ひとりかも寝む92わが袖
 は 潮干にみえぬ 沖の石の 人こそしらね かわくまもなし93世の中は つねにもがもな なぎ
 さこぐ あまの小舟の つなでかなしも94み吉野の 山の秋風 さ夜ふけて ふるさと寒く 衣う
 つなり95おほけなく うき世の民に おほふかな わが立つ袖に 墨染の袖96花さそふ 嵐の庭の
 雪ならで ふりゆくものは わが身なりけり97こぬ人を まつほの浦の 夕なぎに 焼くやもし
 ほの 身もこがれつつ98風そよく ならの小川の 夕暮れは みそぎぞ夏の しるしなりける99人
 もをし 人もうらめし あぢきなく 世を思ふゆゑに 物思ふ身は100ももしきや ふるき軒ばの
 しのぶにも なほあまりある 昔なりけり

基础部分一、鸟瞰和歌的起源与发展1.和歌的起源2.《万
 葉集》时代3.《古今集》时代4.《新古今集》时代二、《小倉百人一首》的编撰过程1.和歌经典《百人
 一首》2.横看侧看《百人一首》3.情感源泉《百人一首》三、《百人首》的竞技方法1.和歌纸牌的竞
 技2.常用的比赛方法四、体味《百人首》的意韵美1.从美意识看《百人首》意韵美2.《百人首》与《花
 间集》的恋情比较3.从情感看《百人首》的意韵美（209）4.从语法看《百人首》的意韵美五、皇室与
 藤原家族的历史渊源1.日本皇室的历史2.皇室与藤原家族五、如何吟味日本古典和歌1.歌诵百遍其意自
 现2.打开古歌的硬外壳3.视作者为己邻己友4.体味意韵重在分析5.形为意设，形神兼备附录一、和歌的
 表现技法二、重要词汇、语句索引三、主要的参考文献及引用图片

<<百首经典和歌赏析>>

版权说明

本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问:<http://www.tushu007.com>